

つなぎあって元気に

40
2013 新年号

希望につながる

明るい年に

なりますように

二〇一三年 元旦



お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます

旧年中はお世話になりました
本年もよろしくお願い致します



「母と女性教職員の会」から子ども達へ
大震災後、東北被災地から大牟田市へ移って来られた子ども達へ、今年もクリスマスプレゼント。市民の皆さんから寄せられた温かい浄財です。

昨年は、北部九州豪雨のため、近隣自治体では甚大な被害を被られました。各市、防災計画の見直し之急がれていますが、一昨年の東日本大震災に続いて、人知の及ばない大自然の猛威を思い知らされもしました。

今年が平穏な一年でありますように

年末に行われた衆議院議員選挙では、自民党が圧勝し、過半数を超える294もの議席を獲得し、また政権が変わることになりました。

二〇〇九年、国民の大きな期待を受けて誕生した民主党政権はその期待に応えることができず退場したわけですが、地方財政について見れば、民主党政権下では地方が自由に使える財源をふやし、地方公共団体が地域のニーズにこたえることができるよう、地方交付税の増額が行われてきました。大牟田市は22億円も交付税が増えました。他にも、少人数学級を段階的に進めることや、高校授業料の無償化など教育や子どもへの予算増など政

平山光子後援会
事務所
大牟田市原山町1-5
0944-53-1661
自宅
大牟田市倉永1651
0944-58-1252
メールアドレス
mitsuko2007@tng.bbq.jp
ホームページ
www.mitsuko-hirayama.net



権交代がなければ実現しなかったことです。

さらに、診療報酬改定や非正規雇用への雇用保険の適用拡大、求職者支援制度、再生可能エネルギーの買取法の実現など、私たちの願いや身近な問題について、政権交代以降、着実に改善が進んできました。

自民党政権下、行きすぎた市場主義によって社会保障や労働者派遣法等の制度改革を行い、利権政治、財界言つたりだった自民党政権が本気で変わって、庶民の暮らしや雇用を立て直していくのでしょうか。国民の多くが願う脱原発への道のも遠のくのではないか、戦争への道を開く憲法改正に一気に進むのではないかと大きな不安を覚えます。

投票率に見られるようにまた政治への失望感が広がっています。しかし、政治が良くなるためには、私たちの暮らしも良くなりません。私たちは、こつこつと汗して働く人や弱い立場の人に目を向け声を挙げていく勢いが力を伸ばすよう、諦めずに訴えていかなければならないと思っています。

今年も、温かいご支援・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

平山 光子

光子の部屋

2013 新年号



大牟田の元気は

地域の元気、一人ひとりの元気から

平山光子後援会長 江崎 アツ子



新たな年明け、皆様はいかがお迎えでしょうか。今年一年が幸多い年となりますよう祈念申しあげます。

昨年も、平山光子後援会、いろいろお世話になりました。

5月には、吉野地区公民館で平山光子を励ます春の集いを、12月の衆議院選では、野田国義さんを応援する演説会を久福木公民館で、後援会が主体となつて行い、多くの皆さんにご出席いただきました。衆議院選挙では残念ながら惨敗してしまいましたが、直接お話しを聞いていただいた皆様には、心からの応援、励ましの言葉をいただきました。

国政は大変厳しい状況となり、一人ひとりを大切に
する教育が、福祉が、平和が守れるのか大変心配です。
しかし、私たちには、子どもや孫の世代が安心して暮らして
いける社会をつくっていく責任があります。

地域で私たち高齢者が元気に繋がって、子どもや孫達を見守っていきたい、元気な大牟田にしたい、そんな願
いを持って平山さんに頑張ってもらおうよう後援会長を
務め、また、地域活動にも取り組んでいます。

今年も、昨年同様、平山光子と後援会に温かいご指導
と鞭撻をよろしくお願い申しあげます。

結びに、皆様のご健康とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

はばたけ塾を始めた川崎町を視察しました

田川郡川崎町では、学習につまずきのある子に教育委員会が主催して学習支援する無料のはばたけ塾を開設しています。学習のつまずき
は不登校の一因でもあります。

小学4年生から中学3年生の希望者が対象で、毎週土曜日の午前中に川崎町のコミュニティーセンターで行われます。科目は算数、数学、受講料は無料、テキストも無料で配布され、指導者は、元教師、市の職員、大学生のボランティアなどによる個別指導。40名ほどの参加予定で始められましたが現在百名を超える参加があり、子ども達に大変好評だと言つております。財政的には決して豊かではない町で、年間予算を8百万円かけて事業が行われていました。

制度導入には、町長と教育長がわざわざ先進地の豊後高田市に行つて調べ、町でできることを検討されたそうです。不登校の状況が深刻な大牟田市でも、このような具体的な町の思い、子どもへの予算が、もっと必要だと改めて思いました。

編集後記

〜巳年はおめでたい〜
今年巳年、蛇は脱皮することから

「復活と再生」につながり、「神の使い」ともいわれて各地で祀られています。また、「蓄財の神」として崇め、抜け殻を財布に入れておく風習もあります。

この国の復活と再生に向けた一年となりますように



議員から年賀状等の挨拶状をお送りすることは、公職選挙法で禁止とされています。この会報をもって、新年のご挨拶とさせていただきます。



12月議会 平山光子一般質問

一 国政の状況と次年度予算

1 地方分権改革と予算編成

民主党政権下における地方交付税増額への評価は？
予算編成に当たっての市長の思いは？

質問 民主党を中心とした政権下では、自治体が地域のニーズに応えられるよう、地方交付税の増額が行われました。この地方財政措置への評価と、それが本市予算へどう反映されてきたについて尋ねました。

答弁 地方交付税の回復が図られ、10年ぶりの累積赤字の解消につながった。これまで取り組めなかったまちづくりのための施策に取り組むことが可能になってきた。

要望 国政は変わったが自治体は住民の声をしっかりと受け止め、福祉や生活の安定向上、未来への投資のための予算をしっかりと確保していただきたい。



2 子どものための予算の充実

本市は、子どもための予算が少ない。拡充を！

質問 長引く不況や非正規雇用などで、若い子育て世代の家計は大変厳しい。それが、子どもへの公的支援の少ない日本では、直接子どもに深刻な影響を及ぼしている。医療費助成、教育予算などの子どもへの予算が県内他市と比べると本市は大変少ないが、しっかりと支援を拡充していく必要があると考える。市長の見解は。

答弁 子育て支援についてはこれからも全力でやっていきたい。

二 教育行政について

1 学校再編計画に伴う諸課題

子ども達にとってより良い教育環境を！

質問 学校適正規模適正配置委員会から、中間報告として、中学校を5校にするという大規模な中学校再編計画が示され説明会が行われた。通学路の安全や部活顧問の不在の問題などは再編を待つのではなく早急に取り組みべき課題だと考える。当局の見解は。

答弁 再編校を含め、地域や学校の実態等を踏まえ、連携を取りながら充実が図られるよう支援していきたい。

要望 市民への十分な広報周知意見収集慎重な討議と市民理解が必要。何より子ども達にとってより良い教育環境を整えることを最優先にして欲しい。

2 教育委員会の役割と権限

教育委員会は地域の教育に大きな責任と役割がある、厳しい課題にもしっかりと向き合って！

質問 教育委員会への批判や首長の教育への介入など、教育委員会制度を危うくする動きがある。戦後の教育委員会制度についての教育長の見解は。

答弁 学校教育においては政治的中立性安定性が重視されている。教育委員会の役割と責務を自覚し、家庭や地域との連携を図りながら未来を託すべき子供たちのための生きる力を育むという努力を続けていきたい。

要望 教育委員会は地域の教育に大きな役割を担っているとの自覚のもと、不登校等への深刻な課題にもしっかりと向き合い、改善に向け努力を。



三 子育て支援の充実について

子ども子育て支援法の本格実施に向け、一丁ズの把握、会議の設置などで充実した事業計画を！
学童保育やひとり親家庭支援の拡充を！

1 子ども子育て関連3法の成立に伴う市町村の役割

質問 子ども子育て関連3法の成立によって、子ども子育て支援が社会保障として位置づけられた。市町村に求められている子ども子育て支援事業計画が充実したものとなるよう地域のニーズを把握し、努力義務とされている地域子ども子育て会議を設置して多くの意見が反映された事業計画を策定していく必要がある。当局の見解は。

答弁 地方版子ども子育て会議における調査審議等は重要で、設置に向けた準備を進める必要があると考えている。検討を進めていきたい。

2 学童保育の充実

質問 子ども子育て支援法に学童保育が位置づけられ、対象も6年生までとなった。全校区設置や対象学年の拡大に伴う今後の整備の方向性について、当局の考えは。

答弁 現状を踏まえ、子ども子育て支援法の本格実施までに調査検討を進めていきたい。

3 ひとり親家庭の支援

質問 増えている一人親世帯の現状、抱える悩みをどう把握し、どんな支援が行われているか。

答弁 県の調査によると生活費に対する不安が多い。本市としては手当等の手続きの際に悩み等の把握に努め、専門機関を紹介するなど、相談者の負担軽減に努めている。



子どもの医療費助成 ～ 活力ある社会を築くための未来への投資(群馬県 大澤知事)～

乳幼児医療費支給制度

福岡県では、3歳未満の医療費(入院、通院)については無料に、3歳以上～就学前までは助成(本人負担有り)を行っています。

通院 六百元/月(上限・一院毎)

入院 五百円/日

(上限三千五百円/月)

市町村が実施し、費用の2分の1が県から補助されるもので、大牟田市では、来年度から入院の助成を6年生まで拡大する準備を進めています。

県内の市町村では医療費無料を拡充

南関町では中学生まで医療費が無料になっていることは夏号でお知らせしました。県内でもすでに多くの市町村が、県の助成枠を超えて独自の助成を拡充しています。

・就学前までの医療費(通院・入院)無料

北九州、福岡(入院は6年まで)、直方、飯塚、田川、八女(入院・中3まで)、筑後、豊前(入院

・中3まで)、糸島、宮若、嘉麻、朝倉など
・一部助成を小学生以上にも拡大

みやま(小3まで)宗像(小6)古賀(18歳)

・他にも多くの自治体が、入院費の無料対象や助成対象の拡大を実施
(詳細は福岡県のHPで)



重症化の防止にも

群馬県では、3年前から中学卒業まで子どもの医療費が無料化されました。小児救急医療電話相談などの環境整備も合わせて行われ、当初懸念した夜間や休日などの時間外診療は増えておらず、早期治療による重症化予防も期待されるとのことです。

総合計画の中に、子どもの健康保持と保護者の負担軽減のための制度と位置づけられており、大澤知事は、議会での質問に答えて「活力ある社会を築くための未来への投資である」と答弁されています。(2012.9月議会)